

蒼穹 NEWS

No.4

七大戦総括号

平成 28 年 8 月 9 日発行



～目次～

- 1 主将挨拶、女子主将挨拶、監督挨拶
- 2 七大戦結果
- 3 七大戦詳細
- 4 七大戦記録
- 5 七大戦 OP の結果 (2016/7/30)
- 6 ご来場頂いた OB・OG の皆様

1. 主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

主将挨拶

7月30、31日に東京・大井陸上競技場にて七大戦が行われました。京都大学は男女総合優勝を目指して1年間取り組んで参りましたが、男女ともに4位という悔しい結果に終わりました。

圧巻のレースを見せた山西(3)、積極的なレースが光った稲垣(4)、勝負強さを見せた柴田(3)に加え、OP・対校問わず多くの選手が自己ベストを更新するなど、この七大戦に向けて努力してきた成果は一部見られました。しかし結果的には1位の東京大学と30点近くの差をつけられ、完全に力負けと言わざるを得ない結果です。

2ヶ月後には東大戦が控えています。七大戦で優勝した東京大学は当然強いです。残り2ヶ月、勝つための実力をつけて東大戦に臨みます。

最後になりましたが、蒼穹会の皆様には猛暑の中、会場で応援していただき本当にありがとうございました。東大戦では必ず勝利し、東大戦での連敗をストップさせるべく、部員一同努力して参りますので、今後とも変わらぬご支援、ご声援の程よろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部主将 足立 涼

女子主将挨拶

先日東京の大井埠頭陸上競技場にて行われました七大戦において、女子は総合4位という結果に終わりました。去年の悔しさを晴らすべく優勝を掲げて戦った1日でしたが大阪大学、東北大学、名古屋大学に力及ばず悔しい思いをしました。全員がベスト以上のパフォーマンスをしなければ勝てないという状況はそう覆るものではないと改めて実感する試合となりました。しかしながらこの1年かけて努力を重ねてきた選手は自己ベストを更新したり、決勝で活躍してくれたりと成果が確実に現れた場面もありました。

今年は部員との相談の上、9月の関西学生女子駅伝には出場しないという決断をしましたので、私たち4回生が幹部として前に立つのも10月の東大戦のみとなります。今の状況を見てもとても厳しい戦いが予想されますが12連覇がかかる大会でもあり、必ず勝利をおさめたいと部員一同思っております。残り2ヶ月ほどでさらなるレベルアップをして東大戦に臨むべく、頑張っていこうと思っております。

最後になりましたが、大変な暑さの中、多くの蒼穹会の皆様に応援激励をいただき、誠にありがとうございました。皆様に嬉しい結果報告ができますよう精進してまいりますので、今後とも変わらぬご支援ご声援のほど宜しくお願い致します。

京都大学陸上競技部女子主将 金澤 和寿美

監督挨拶

真夏の東京で行われた七大戦、京都大学は男女ともに総合4位という結果でありました。

オープンを含め二日間、部員たちは競技、応援、サポートなど精一杯取り組みましたが、目標の男女総合優勝には大きく届きませんでした。

男子は初日の競歩、ハンマー投げでは理想の展開になりよい流れを持って2日目に挑めましたが、東京大学の気迫に押され期待していた得点を重ねることができず、大敗となりました。女子は善戦しましたが、各種目でもうひとつ順位を上げることができず全体として上位に遠く及びませんでした。

次は東大戦です。4回生が作ってきたこのチームはまだまだ成長する可能性があります。相手は強いですが、絶対に勝つんだという強い気持ちを持って、近国、同志社戦をステップにして、この2ヶ月じっくり力を付けていきたいと思っています。

蒼穹会の皆様方、暑い中本当に多くの先輩方に来ていただいたにも関わらず、ご期待に添えることができず申し訳ありません。どうか変わらぬ御支援・御声援のほど、宜しくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 西村 優汰

2. 七大戦結果

男子総合の部

1位	東京大学	91.5点
2位	大阪大学	85.5点
3位	名古屋大学	62点
4位	京都大学	61点
5位	東北大学	52点
6位	北海道大学	30点
7位	九州大学	27点

男子トラックの部

1位	東京大学	52.5点
2位	京都大学	51点
3位	大阪大学	49.5点

男子フィールドの部

1位	東京大学	39点
2位	大阪大学	36点
3位	東北大学	30点

女子総合の部

1位	大阪大学	19点
2位	東北大学	18.5点
3位	名古屋大学	11点
4位	京都大学	11点
5位	北海道大学	10点
6位	東京大学	8点
7位	九州大学	3点

女子トラックの部

1位	東北大学	15点
2位	大阪大学	12点
3位	名古屋大学	7点

女子フィールドの部

1位	大阪大学	7点
2位	北海道大学	5.5点
3位	京都大学	5点

3. 七大戦詳細

1 日目【7 月 30 日 (土)】

5000mW 決勝(4 点制)

山西 利和 (3) 19.52.17 1 位
秋本 啓太 (2) 22.00.59 4 位

5000mW には山西と秋本が出場した。出場選手の中で抜きん出た実力を持つ山西がスタートから飛び出し、600m 以降は完全に一人旅となって優勝。2 位とは 1 分以上の差を付けた。

秋本は東大の選手、さらには OP の選手たちとともに 4 位集団を形成した。東大の選手がラスト 1000m で前に出たが秋本は冷静に真後ろに付き、最後の 200m で一気に引き離し 4 位を奪った。

京大はトラック最初の種目で目標を達成し 5 点を獲得し、上々の滑り出しとなった。(原田)



5000mW で 1 点をもぎ取った秋本(2)。東大に競り勝った 1 点は次の東大戦に繋がる一点となるだろう。

ハンマー投 決勝

若園 直樹 (5) 44m67 1 位
浅野 智司 (3) 43m13 4 位

男子ハンマー投は 1 日目に行われた。

2 連覇を狙う若園(5)は 2 投目で 43m09、3 投目で 44m67 を記録し、見事優勝を飾った。

浅野(3)は 1 投目で自己ベストを更新する 41m84 を記録すると、2 投目で 43m13 をマークし、さらに自己ベストを更新し、事前ランキングを上回る 4 位となった。5 人が 40m 以上を記録するなど、昨年よりレベルは高くなったが、京都大学は 1 位と 4 位に入り、翌日に向けて良い流れを作った。(三田村)

2 日目【7 月 31 日 (日)】

<トラック競技>

3000mSC 決勝

久米 祐輔 (4) DQ
稲垣 達也 (4) 9.20.43 2 位
田中 仁 (1) 10.00.13 15 位

今回から正選手が 3 人となった 3000mSC には、稲垣、久米、田中仁が出場した。強い陽射しの下でスタート。序盤は東大の 3 選手が牽引し、1000m あたりで阪大の吉田が先頭に立った。ラスト 2 周で稲垣がロングスパートをかけた。最後は東大の福島にかわされ 2 着となったが、稲垣は自己新記録をマークした。久米は残り 600m 付近で数

歩内側に入ってしまう、失格となった。田中も暑さに負けず、粘りの走りを見せた。(糠谷)



思い切ったスパートで2位を勝ち取った稲垣(4)。今シーズンは京大の3000mSCの柱として成長を見せており、東大戦での活躍にも期待がかかる。

女子 400m 予選

山中 遥加 (4) 1.01.54 q
小野 萌子 (2) 1.01.48 Q

1組目には山中(4)が出場した。始めは安定したスタートで入り、残り200mあたりから大阪大学の畑中、名古屋大学の長谷川と競る形になる。最後に惜しくも抜かされてしまうが、その走りは自己ベストを叩き出す見事な走りで、+2の枠を勝ち取った。

2組目には小野(2)が出場した。スタートをしっかりと決め、バックストレートで周囲を引き離して、最後までスピードが大きく落ちることもなく、余裕を持った走りで2着でフィニッシュ、決勝へと駒を進めた。(大下)

400m 予選

神先 宏樹 (2) 50.10 Q
紀平 直人 (4) 49.03 Q
岡部 龍樹 (4) 50.07 q

400m 予選には神先(2)、紀平(4)、岡部(4)の三人が出場した。神先は風の影響から前半抑え気味に入ったが、後半しっかり追い上げ2着で予選を通過した。

紀平は200m地点でトップにたつと余裕を感じさせる走りで順当に1着でゴールした。

岡部は前半少し遅れ気味になるも3着でゴールしタイムで決勝へと進出した。(小原)

400mH 予選

川崎 皓斗 (3) 57.17
五十嵐 隆皓(2) 56.45
新村 航輝 (4) 54.35 Q

400mHは小雨の中行われた。1組目はランキング上位の3人がスタートから抜け出し、川崎は出遅れてしまう展開となり、4着でゴールした。2組目の五十嵐は後半に追い上げるも及ばず4着でのゴールとなったが、見事自己ベストを更新した。3組目の新村は実力通り安定したハードリングで余力を残し1着に入り、決勝進出を決めた。(松井)

女子 100m 予選

金澤 和寿美(4) 13.59
完山 聖奈 (2) 13.33

女子 100m には 4 回生の金澤と 2 回生の完山が出場した。1 組目に出場した金澤は後半に離されてしまい 13"59 で組 6 着。決勝に進出することができなかった。2 組目に出場した完山は申請記録を上回る 13"33 の好走をみせるが組 5 着。決勝進出まであと 0"12 届かなかった。(相澤)

100m 予選

澤 薫	(3)	10.86	q
備藤 翼	(4)	10.96	
安藤 滉一	(2)	10.82	Q

男子 100m には澤、備藤、安藤が出場した。澤は 50m 付近まで横一列だったが、その後は抜け出し 2 着と僅差の 3 着でゴール。備藤はスタートで遅れ、最後は少し盛り返したものの 4 着でゴール。安藤はスタートからゴールまで安定したレース運びで余裕の 2 着でゴール。澤はプラスで決勝に進出したが、備藤は 0.06 秒足らず決勝進出とはならなかった。ただ、備藤は追い風参考記録だったものの、3 人とも 10 秒台という好タイムであった。(内田)

1500m 決勝

足立 涼	(4)	3.53.74	2 位
柴田 裕平	(3)	3.56.59	7 位
岡野 颯斗	(4)	3.53.94	3 位

男子 1500m には、足立、岡野、柴田の三人が出場した。1 周目は 61 秒、2 周は 66 秒とペースが安定しない中、足立、岡野、柴田は集団の前方を位置取る。1000m 過ぎに東大の近藤がペースを上げ先頭に出ると、岡野はそれに反応し、ラスト 300m

でいったん下がるもののラスト 150m で、巻き返し 3 位でゴール。足立は近藤のペースアップに冷静に対応し、ラスト 300m からスパートをかけたが、近藤を差せず 2 着。柴田は近藤についていくことができずに 7 位でゴール。京大はライバルの近藤に勝つことはできなかったが、9 点を取り、チームに勢いをつけることができた。(河合)



1500m では惜しくも得点を逃した柴田 (3)。しかし続く 5000m では前評判を覆して優勝し、意地を見せた。来年の七大戦でも 1500m の出場が予想されており、上位に絡む戦いをしてほしい。

400m 決勝

神先 宏樹	(2)	50.44	6 位
紀平 直人	(4)	48.77	2 位
岡部 龍樹	(4)	50.90	7 位

3 人ともが決勝に残り大量得点が期待されたが、予選から時間が短く天気も荒れていたのもので難しいレースとなった。紀平が

前半から快調にとぼし他の選手を引っ張る形となっていた。神先は 200m 地点まではよかったが後半苦しい走りとなってしまった。岡部は疲労からか速いレース展開に対応できず少し遅れてしまった。優勝が期待された紀平だったが勝ちを確信し気が緩んだところで阪大の選手に抜かれてしまった。結果 3 人とも悔しいレースとなってしまった。(小原)

110mH 予選

福島 理 (2) 15.72
田中 伸幸 (3) 15.53
黒瀬 慶 (2) 16.46

田中の組は混戦となり、田中も喰らいついたものの競り負けて組 5 着となり、プラスでは拾われなかった。福島、黒瀬は初の七大戦であり、福島は快調にスタートを決めたが徐々に離され、組 3 着だったがタイムが伸びず、決勝進出はならず。黒瀬はスタートで出遅れ、巧みなハードリングで粘りを見せたが組 6 着となった。惜しくも 110mH での決勝進出者は出ず、課題を残す結果となった。(吉川)

100m 決勝

澤 薫 (3) 10.81 4 位
安藤 滉一(2) 10.90 6 位

男子 100m 決勝には澤、安藤が出場した。レースは予選から大会記録を更新した東北大の宮崎が序盤から大きく先行し、そのまま独走の 1 着でゴール。澤と安藤を含む 2 位以下はほぼ横並びで終盤に。澤はそこか

ら粘りを見せたが、東京大の泉と大阪大の小口に少し先行され 4 着。それでも自己ベストの走りだった。安藤は少し硬さがみられ終盤の伸びがなく 6 着でゴール。結果、男子 100m では 4 点を京都大学にもたらしした。(内田)

女子 800m 決勝

坂上 小百合(4) 2.33.84 12 位
岸本 絵理 (3) 2.17.33 3 位

女子 800m 決勝には坂上、岸本が出場した。スタート直後から北大の上田が飛び出しハイペースな展開となる。岸本は先頭と少し離れて 3 番手に、坂上は 4 位集団前方に位置どる。ランキングトップの東大高石を含めた 3 人が縦一列となって 1 周目を 65 秒で通過。坂上を含めた 4 位集団が少し遅れて 1 周目を通過する。400m を過ぎてから岸本は先頭と少し離れてしまう。坂上は少しずつ後方に下がることになる。残り 200m で岸本はスパートをかけるが惜しくも東大高石を交わせず 3 位でゴール。坂上は苦しい走りとなり 12 位でゴールした。(平中)

800m 予選

岡野 颯斗 (4) 1.56.60
土屋 維智彦(1) 1.56.62
足立 涼 (4) 1.57.54 Q

今年の 800m は、ベストタイムが 1 分 51 秒台の東大の軽部や、5 月の関西インカレ(2 部)ファイナリストの阪大の渡辺などが出場し、ハイレベルな戦いになると予想された。1 組の岡野は、スタート直後は後

方につけ、一時は3番手に浮上した。しかし、2周目に阪大の渡辺が前に出ると次第に先頭集団から離され、組6着でゴールした。2組には土屋が登場。スタートから3~4番手につけ、集団が固まったまま400mを56秒で通過。500mあたりから東大の軽部が前に出ると集団がばらけ、土屋は6番手まで落ちるが、ラストの直線で阪大の選手を抜いて組5着でゴール。大学ベストを更新した。最終3組、足立はスタートから後方につけ、全員が団子状態で400mを59秒で通過。500m以降2番手に浮上し、ラストの直線で北大の選手を抜いて組1着でフィニッシュ。決勝進出を決めた。(谷川)

400mH 決勝

新村 航輝 (4) 53.74 3位

失格となった名大上野を除いて予選はランキング通りの結果となり、決勝が行われた。予想通りランキング1位と2位の名大小田(3)と名大真野(2)が抜け出し、新村も彼らに続き前半から攻めていった。直線に入り落ちてきた2人を追い上げるも前半にとられたリードを詰めきれずに3位となったが、予定通り4点を獲得し安定感を見せた。(松井)

安定したハードリングで3位を死守した新村(4)。来年以降はハードル種目は更に厳しい戦いになることが予想されるため、ニューヒーローの登場が待たれる。(右上写真)



200m 予選

山木田 雅(4) 21.98 q
安藤 滉一(2) 21.91 q
庄司 溪 (3) 22.10

200m 予選は山木田(4)、安藤(2)、庄司(3)が出場した。山木田が出場した1組目は直線までで山木田を含む2~5着までの4人が並んだ。山木田は後半粘り強く競り、3着でフィニッシュラインに滑りこみ、タイムで決勝にコマを進めた。2組目の安藤はスタートダッシュからの加速でうまくスピードにのり、後半そのスピードを維持し、山木田と同じくタイムで決勝進出。3組目の庄司はスタートで勢い良く飛び出したものの、タイムで拾われず惜しくも決勝進出はならなかった。後半で前を走る選手2人に差をつけられてしまったことが大きかったか。(小谷)

女子 3000m 決勝

増田 茄也子(2) 10.26.38 4位
岡本 萌巴美(3) 10.43.01 7位

女子 3000m では、ランキング上増田が 2 位、岡本が参考記録で 7 位前後であった。目標は、増田が優勝、岡本が 4 位で得点を目指した。レースとしては、前半は集団を作り、それほど牽制しあうこともなくかといってそこまでハイペースともいえない展開。1000m を超えたあたりから、少しずつ集団が縦長になり始める。増田は、先頭集団につき、岡本は第 2 集団を引っ張る。残り 1 周となったところで阪大の諸吉がスパートをかけるが増田はしっかりと対応する。しかし、ラスト 200m でもう一度諸吉がスパートをかけたのに対応しきれず、結果は 4 位。岡本は、ラスト 400m で遅れるがラスト 100m で一人を抜き返し、意地を見せて 7 位。二人とも PB を出しながら、目標の順位には届かないというハイレベルな闘いであった。(里美)

4×100mR 決勝

備藤—山木田—安藤—岡本 41.92 5 位

1 走が澤(3)から備藤(4)に変更され、1 走備藤、2 走山木田(4)、3 走安藤(2)、4 走岡本(2) の走順で臨んだ。1 走備藤はうまく加速に乗ってほぼ先頭で山木田に繋ぐが、バトンが詰まってしまい他大学をリードすることは出来なかった。2 走山木田、3 走安藤は個人種目での疲れからかベストの走りが出来ずに 4 走岡本に 5 番目にバトンが渡る。岡本は 7 レーン東大と競ったが順位は変わらず 5 位でのフィニッシュとなった。(清水利)

女子 400m 決勝

山中 遥加 (4) 1.01.85 6 位
小野 萌子 (2) 1.00.49 3 位

1 レーンに山中(4)、4 レーンに小野(2)という形での決勝となった。山中は前半から強気に攻め、残り 100m では 4 番の位置にいたが、予選での疲れもあってか最後にあげきれず、辛くも予選同様畑中、長谷川に抜かれ、6 着でのフィニッシュとなった。小野はスタートからスピードを維持、バックストレートからホームストレート、そしてゴール前でも着実に差をつめる粘り強い走りで見事 3 着となった。(大下)

800m 決勝

足立 涼 (4) 1.56.74 7 位

小雨が降る中でのレースとなった。足立は 5 レーンに登場。1500m と合わせてこの日 3 本目のレースであった。スタートから最後尾につけ、前の 7 人と少し間を空けて 400m を 59 秒で通過。そこから東北大の選手を抜いて 7 番手に上がるが、その前の数人とはなかなか差が縮まらず 7 位でゴール。得点にはあと 1 歩及ばなかった。

優勝した東大の軽部は 1'53"86 の大会新記録をマークし、予想通りハイレベルなレースとなった。(谷川)

200m 決勝

山木田 雅(4) 22.15 6 位
安藤 滉一(2) 22.00 5 位

200m 決勝は山木田 (4)、安藤 (2) の 2

名が出場した。1レーンに山木田、2レーンに安藤が並ぶ形となった。山木田は予選からの疲れもあってか、後半力んで失速したように見えた。安藤は前半で他の選手に差をつけられてしまったが、ラストで少し前の選手との差をつめ5位となった。(小谷)



決勝で共に得点した安藤(2)と山木田(4)。今回東大には100m、200m共に上位を取られており、東大戦でのリベンジに期待したい。

5000m 決勝

柴田 裕平	(3)	14.49.60	1位
尾崎 拓	(3)	15.00.65	3位
高石 雅貴	(4)	15.11.86	5位

事前のランキングでは14分前半を持つ東大の近藤がトップでこれに対し京大からはパートチーフの4回生高石と3回生の柴田、尾崎が出場した。

レースでは序盤から近藤、柴田、尾崎を含む5人が先頭集団を形成し、そのまま近藤を先頭に1000mを2'50で通過。高石は6位集団の前の方に位置どる。先頭集団は

1人が落ちて3000mは8'54で通過すると3800mで尾崎がスパート。柴田はこれにつき近藤はここで遅れる。この頃に高石を含む集団は5位集団となる。4300m頃に尾崎は近藤に抜き返されるが柴田は先頭のままゴール。高石は4位集団となった中で争い5位に。

京大が1位、3位、5位を取って12点を獲得。全体としてランキングを覆す快走で京大長距離の力を見せつけるレースとなった。(亀田)



PCの意地で2点をもぎ取った高石(4)。京大長距離の強さは健在であることを証明した試合となった。

女子4×100mR 決勝

金澤-完山-小野-山中 51.17 4位

1走の金澤のキレのあるスタートが決まりいい位置で2走完山へ。しかしバトンはずまってしまった。完山はバネのある走りをし、3走小野へ。そのバトンパスでもつ

まってしまった。そして400m決勝後で、またさらにバトンミスがあったにも関わらず小野と4走山中が力走し京大は4着であった。また、1着は東北大学で大会新記録となる49"06であった。バトンの精度で49秒台、そして3位以内入賞が狙えたため悔しい結果となった。(西脇)

4×400mR 決勝

神先-新村-岡部-紀平 3.22.21 6位

神先(2)-新村(4)-岡部(4)-紀平(4)の走順で臨んだ。メンバー全員が個人種目の予選決勝を終えてのレースとなり、体力的に不安のある状況であった。1走の神崎は個人種目の疲労もあり、前半からスピードを上げることができず厳しい走りとなった。2走の新村は49秒フラットの走りを見せたが、差はなかなか埋まらない。3走の岡部も必死に前を追うが、依然差は開いている。4走の紀平は足に違和感がある状態で、後半左脚の感覚が無くなるも走りきった。結果は6位。他大学の層の厚さを感じさせるレースだった。(茂森)

<跳躍競技>

女子走高跳 決勝

林 玲美 (2) 1.58 1位

女子走高跳には昨年度覇者の林が出場した。プレッシャーからか1m50の一回目こそ失敗してしまったものの、二回目できっちり成功させ、続く1m55も一回で成功させた。この時点で東北と九州の選手と3人での勝負となったが、1m58をただ一人3回目で

成功させ、京大に貴重な得点をもたらすとともに2連覇を達成した。(清水秀)

走幅跳 決勝

本居 和弘 (1) 6.89(+1.1) 10位
松下 隼人 (4) 6.97(+2.0) 9位
澤 薫 (3) 6.76(+1.5) 12位

男子走幅跳には松下、澤、本居が出場した。松下は1本目7mを超える跳躍を見せるが惜しくもファール、2本目に6m97を跳ぶも9位で決勝進出はならなかったが、4回生として七大会への気持ちの強さを感じさせた。澤は強い追い風に影響されてか、なかなか足が合わずに6m76と平凡な記録に終わってしまった。本居は1本目に大幅PBとなる6m89を跳び、1回生ながら健闘し、今後の可能性を感じさせたが10位でこちらも決勝進出はならなかった。(南井)

棒高跳 決勝

珍坂 涼太 (3) 4m20 8位
小野坂 健 (4) 4m00 9位
澤 薫 (3) NM

棒高跳びは、京大からは珍坂、小野坂、澤の三人が出場。前日とは異なり、空はどんより曇っていた。

まずは珍坂がピットへ。3m80からのスタート。赤く染めた髪からは燃え上がる闘志を感じる。1,2本目を失敗するも3本目で成功。4m00は一発成功し勢いに乗る。直後に小野坂が4m00からスタート。これを2本目で決める。ここで雨が降り出し、

一時中断。再開後、珍坂が見事に 4m20 を一発成功。小野坂は 4m20 を 3 回とも失敗した。その後珍坂も 4m30 を跳べなかったが、ベスト更新で澤に勢いを与えた。

澤は、100m 予選→棒高跳び公式練習→100m 決勝(4 位)と、ハードなスケジュールをこなした直後に 4m50cm からスタート。しかし 3 回ともバーを越えられず、NM に終わった。やはり、天候が不安定な中でのハードスケジュールによる疲労は大きかったのだろうか。しかし澤の 100m の 3 点は大きかった。(潮崎)

走高跳 決勝

平島 敬也 (1) 1m75 12 位
五十嵐 隆皓(2) 1m80 9 位
竹田 風馬 (3) 1m80 9 位

走高跳には竹田、五十嵐、平島が出場した。この日は朝から太陽が照りつけ、気温が非常に高かったものの、徐々に雲が空を覆い始め、走高跳びの競技が始まるとどしゃ降りの大雨となった。

1m70 は竹田と五十嵐がパス。平島は 1 回目で難なくクリアした。1m75 も竹田、五十嵐がパス。平島はこれも 1 回目でクリアした。1m80 は竹田、五十嵐共に 1 回目は失敗したものの、2 回目でクリア。平島は 3 回とも失敗し、惜しくも競技を終えた。1m85 は竹田と五十嵐が跳んだ。非常に惜しい跳躍が見られる場面もあったものの、悪天候が相まって 2 人ともバーを越えることは出来なかった。得点には結び付かなかったものの、これからの成長が期待できる跳躍であった。(三谷)

女子走幅跳 決勝

完山 聖奈 (2) 4m79(+1.1) 9 位
金澤 和寿美(4) 5m15(+0.7) 6 位

女子走幅跳には金澤、完山が出場した。昨年より女子走幅跳はハイレベルの中での闘いだった。

金澤は 1 本目、風が不安定な中、シーズンベストである 5m00 を跳んだ。この時点で決勝進出はほぼ確定。2 本目、3 本目は惜しくもファール。追い風が強く、他の選手もファールが多かった。金澤は暫定 5 位で決勝進出。完山は 5m を目標に掲げて挑んだ。1 本目、ファール。しかし助走の流れが良く、実測 5m は超えていたと思われる。2 本目は 4m79。1 本目がファールだったためか、少し勢いを抑えての跳躍となった。3 本目はわずかにファールで予選敗退。調子は良く見えたが、惜しい結果となった。

決勝で金澤は 4 本目 4m90。4 位に入るには 5m20 は必要となってくる。5 本目、わずかにファール。ここで 7 位だった九大の阿久根が 5m22 を跳び、4 位に浮上。金澤は最後の 6 本目でこの阿久根の記録を超えれば得点に繋がる。そして最後の跳躍、金澤は観客席に手拍子を求めた。さらに勢いがつき、5m15 という今シーズン最も良い記録を出したが、得点には届かなかった。

金澤は女子主将として、最後まで力強い跳躍を見せてくれた。東大戦でも金澤らしい跳躍を期待したい。完山は、今回は涙を飲む結果となったが、調子を上げてきているので、次はぜひ 5m を跳び超えてほしい。(広川)

三段跳 決勝

三神 惇志 (1) NM
伊東 悠希 (2) 14m29(+0.5) 8位
松下 隼人 (4) 13m76(-0.4) 13位

6月に14m16とPBをマークし、勢いに乗る伊東は、3回目の跳躍で14m29とPBを更新し、TOP8に残った。4回目以降の跳躍では記録を伸ばすことができなかったが、2回生ながら8位と健闘した。走幅跳にも出場した松下は調子を上げられず、残念ながらTOP8に残ることはできなかった。三神は足がうまく合わず3回ともファールとなり、記録を残すことはできなかった。(柴田星)



ベスト8まで駒を進めたものの、惜しくも得点することはできなかった伊東(2)。来年の七大戦では三段跳のエースとして得点に絡んでほしいところ。

<投擲競技>

やり投 決勝

浅野 智司 (3) 51m59 6位

男子やり投げ決勝には浅野が出場した。強い雨が降ったり止んだりする悪天候での試合になった。1、2投目とも雨が強く記録は伸びなかったが、日差しが出てきた3投目のやりはぐんぐん伸びていく。納得のいく投擲は51m59のPBを記録し、全体の6位に入った。浅野は4投目以降、記録を伸ばすことはできなかったが、5投目にも51m42の好記録をマークするなど、全体として内容の良い試合だった。結果はそのまま6位に入り、点数を獲得した。(清水智)

女子砲丸投 決勝

横山 優花 (2) 9m80 4位
福井 優輝 (1) 7m43 9位

京大からは福井、横山が出場した女子砲丸投げは強い日差しと強い雨が交互に訪れる悪いコンディションの中行われた。福井は8mをプットしてトップ8に残ることを目標としていたが、動きに固さが見られて大学ベストを更新することができず、3投目を終えて8位とは96cm差でトップ8に残ることができなかった。一方資格記録では3位の横山は10m以上をプットできる上位2名との勝負が期待された。有力選手がミスプットを重ねる中横山は1投目で9m80とまずまずの数字を残して序盤は好位置につけたが、そこから記録を伸ばすことができず、結果1投目の記録が最高記録

となり、ズルズル順位を落として 4 位という結果に終わってしまった。1 投目で良い流れを作っただけに本人は一層の悔しさを感じているだろう。福井は競技を再開してわずか 1 ヶ月であるため、まずはブランクを埋めることで、また横山は 4 投目 5 投目でベストを更新できるだけの体力や集中力を身につけることで、両者がさらなる飛躍を遂げることを期待したい。(水野)

上回る 31m 台をマークした。結果はあと一歩及ばずベスト 8 には進めなかったが、最後の試技で一番良い投擲を見せてくれるなど、攻めの姿勢を貫いてくれた。(清水秀)



女子砲丸投げで 1 点を獲得した横山(2)。この夏でさらなる成長を見せて、10m 超えを出してほしい。

円盤投 決勝

山下 圭二	(4)	31m06	11 位
大橋 悟	(1)	31m48	10 位

男子円盤投は両者とも決勝進出が期待される山下圭、大橋の二名が出場した。

1 投目は二人とも 30m 前後を投げ、2 投目は二人とも失敗となるも 3 投目は 1 投目を

4. 七大戦記録

(予選決勝あるものは決勝のみ)

① 男子の部

▼100m (-0.9)

1	宮崎	幸辰	東北大	10.50	NGR
2	泉	悠太	東京大	10.74	
3	小口	伸	大阪大	10.74	
4	澤	薫	京都大	10.81	
5	藤原	宇央	大阪大	10.83	
6	安藤	滉一	京都大	10.90	

▼200m (+1.4)

1	宮崎	幸辰	東北大	20.91	NGR
2	藤田	旭洋	東京大	21.29	NGR
3	西村	智宏	東京大	21.37	NGR
4	藤原	宇央	大阪大	21.55	
5	安藤	滉一	京都大	22.00	
6	山木田	雅	京都大	22.15	

▼400m

1	佐藤	弘樹	大阪大	48.76	
2	紀平	直人	京都大	48.77	
3	嶋田	健太郎	名古屋大	49.28	
4	春田	晋作	名古屋大	49.28	
5	高塚	誠司	大阪大	49.54	
6	神先	宏樹	京都大	50.44	

▼800m

1	軽部	智	東京大	1.53.86	GR
2	渡辺	壮流	大阪大	1.54.94	
3	松木	大地	九州大	1.55.29	
4	加藤	騎貴	東京大	1.55.59	
5	砂原	健汰	名古屋大	1.55.60	
6	小畑	皓恭	北海道大	1.55.70	

▼1500m

1	近藤	秀一	東京大	3.52.16	NGR
2	足立	涼	京都大	3.53.74	

3	岡野	颯斗	京都大	3.53.94	
4	西尾	文吾	名古屋大	3.55.23	
5	妻藤	圭祐	九州大	3.55.55	
6	西川	拓	東京大	3.55.72	

▼5000m

1	柴田	裕平	京都大	14.49.60	
2	近藤	秀一	東京大	14.53.13	
3	尾崎	拓	京都大	15.00.65	
4	酒井	洋明	北海道大	15.09.14	
5	高石	雅貴	京都大	15.11.86	
6	本間	涼介	東北大	15.13.59	

▼110mH (+0.5)

1	井上	暢起	大阪大	14.46	
NGR					
2	小野	雅博	九州大	14.79	
3	岩瀬	累	名古屋大	14.96	
4	真野	悠太郎	名古屋大	15.09	
5	工藤	翼	東北大	15.12	
6	手石	雅人	名古屋大	15.24	

▼400mH

1	真野	悠太郎	名古屋大	52.41	
2	小田	将矢	名古屋大	52.50	
3	新村	航輝	京都大	53.74	
4	壹岐	晃平	九州大	54.77	
5	田里	康介	大阪大	54.78	
6	加来	宗一郎	東京大	55.65	

▼3000mSC

1	福島	洋佑	東京大	9.18.15	
2	稲垣	達也	京都大	9.20.43	
3	吉田	広輝	大阪大	9.23.58	
4	塩見	圭史	大阪大	9.33.56	
5	阿部	飛雄馬	東京大	9.35.88	
6	ヤコブ・ランソングリスレル		大阪大	9.37.14	

▼5000mW

1	山西	利和	京都大	19.52.17	
2	中川	岳士	北海道大	21.14.18	

3	渡邊 成陽	東京大	21.47.90
4	秋本 啓太	京都大	22.00.59
5	堀江 駿	東京大	22.05.18
6	相武 大輝	北海道大	22.40.74

▼4×100mR

1	大阪大学	41.23
2	東北大学	41.44
3	東京大学	41.78
4	九州大学	41.83
5	京都大学	41.92
6	北海道大学	43.29

▼4×400mR

1	名古屋大学	3.15.85	NGR
2	大阪大学	3.16.57	
3	九州大学	3.17.02	
4	東京大学	3.17.17	
5	東北大学	3.19.19	
6	京都大学	3.22.21	

▼走高跳

1	福永 大輔	東京大	2m12
2	山下 一也	東北大	2m00
3	下田 和樹	北海道大	1m95
4	大賀 春輝	大阪大	1m95
5	田中 祥平	東北大	1m90
6	藤井 佳祐	東北大	1m85

▼棒高跳

1	三宅 功朔	東京大	4m90
2	高橋 拓実	東北大	4m70
3	杉山 翔馬	北海道大	4m60
4	五十嵐 俊	大阪大	4m60
5	松下 周平	東京大	4m50
6	高橋 昇之	東北大	4m40

▼走幅跳

1	西村 智宏	東京大	7m62(+1.3)
NGR			
2	橋本 太翔	名古屋大	7m54(+2.3)

3	伊藤 裕也	名古屋大	7m53(+1.8)
4	小口 伸	大阪大	7m47(+1.5)
5	中谷 豪汰	大阪大	7m27(+0.6)
6	深澤 竜太	東京大	7m23(+3.8)

▼三段跳

1	藤 悠里	九州大	14m86(+0.3)
2	中谷 豪汰	大阪大	14m72(±0.0)
3	伊藤 裕也	名古屋大	14m72(-0.9)
4	吉田 侑弥	東京大	14m64(-0.9)
5	浜島 裕亮	名古屋大	14m57(+0.1)
6	木下 秀明	東京大	14m42(-0.3)

▼砲丸投

1	楠 哲也	東北大	12m77
2	赤坂 健太郎	北海道大	12m08
3	奥村 俊樹	東京大	11m83
4	古場 凜太郎	大阪大	11m50
5	重吉 比呂	大阪大	11m22
6	土井 雅人	東京大	11m07

▼円盤投

1	楠 哲也	東北大	39m58
2	古場 凜太郎	大阪大	38m25
3	奥村 俊樹	東京大	36m61
4	西田 亮也	名古屋大	35m91
5	赤坂 健太郎	北海道大	35m22
6	明石 大輝	北海道大	34m06

▼ハンマー投

1	若園 直樹	京都大	44m67
2	鍵本 直人	東京大	44m52
3	稲村 勇雅	北海道大	43m92
4	浅野 智司	京都大	43m13

- 5 笹島 史好 北海道大 41m35
6 野尻 英史 東北大 36m03

▼やり投

- 1 神田 直仁 大阪大 67m16
2 西田 亮也 名古屋大 58m08
3 山中 統吾 大阪大 57m66
4 楠 哲也 東北大 56m27
5 栗林 篤 名古屋大 55m75
6 浅野 智司 京都大 51m59

② 女子の部

▼100m (-0.1)

- 1 佐貫 有彩 東北大 12.59
2 佐々木 千肅 東北大 12.73
3 藤原 郁美 大阪大 12.91
4 岡 愛美 名古屋大 12.93
5 田村 麻有 大阪大 13.08
6 森田 侑実重 名古屋大 13.20

▼400m

- 1 佐貫 有彩 東北大 58.12
2 坪浦 諒子 東京大 58.19
3 小野 萌子 京都大 1.00.49
4 長谷川 詩歩 名古屋大 1.01.16
5 畑中 杏佳 大阪大 1.01.27
6 山中 遥加 京都大 1.01.85

▼800m

- 1 上田 江里子 北海道大 2.15.36
2 高石 涼香 東京大 2.17.31
3 岸本 絵理 京都大 2.17.33
4 後井 彩 大阪大 2.19.80
5 上條 麻奈 東北大 2.20.06

- 6 豊澤 みどり 北海道大 2.22.87

▼3000m

- 1 諸吉 早紀 大阪大 10.24.12
2 田中 里歩 名古屋大 10.25.15
3 三池 瑠衣 大阪大 10.25.66
4 増田 茄也子 京都大 10.26.38
5 竹平 佳菜子 北海道大 10.31.45
6 藤村 柚紀子 九州大 10.37.68

▼4×100mR

- 1 東北大学 49.06 NGR
2 大阪大学 49.50 NGR
3 名古屋大学 49.84
4 京都大学 51.17
5 九州大学 51.20
6 北海道大学 52.80

▼走高跳

- 1 林 玲美 京都大 1m58
2 中村 真璃子 東北大 1m55
3 青木 円花 九州大 1m55
4 塚越 千弘 北海道大 1m45
4 渡邊 朝美 東北大 1m45
6 大西 美佐歩 名古屋大 1m45

▼走幅跳

- 1 菊武 優奈 大阪大 5m69(+1.2)
2 今川 尚子 大阪大 5m66(±0.0)
3 白形 優依 東京大 5m45(+3.1)
4 阿久根 清羅 九州大 5m22(+1.4)
5 渡邊 朝美 東北大 5m20(+1.1)
6 金澤 和寿美 京都大 5m15(+0.7)

▼砲丸投

- 1 大西 美佐歩 名古屋大 10m82
2 塚越 千弘 北海道大 9m97
3 中島 由貴 北海道大 9m82
4 横山 優花 京都大 9m80
5 渡邊 朝美 東北大 9m67
6 河内 慶子 名古屋大 8m98

5. 七大戦 OP の結果

(2016/7/30 大井ふ頭)

・男子の部

▼100m

小谷 哲	11.51	-0.2	♪
西脇 友哉	11.70	-0.2	PB
清水 利宇	11.83	-2.2	
林 聖也	11.85	-1.6	
佐藤 優斗	11.92	-1.5	
珍坂 涼太	11.94	-2.2	
吉川 慶	12.00	-2.5	
佐藤 啓太	12.04	-1.8	
松井 そら	12.06	-2.5	♪
内田 隆介	12.08	-1.2	♪
中井 一宏	12.16	-1.4	
清水 良輔	12.18	-1.6	
西田 光治	12.19	-3.2	
森田 悠也	12.23	-0.7	
市川 和也	12.37	-0.2	
八木 孝憲	12.44	-3.1	
長崎 裕貴	12.55	-3.1	
豊本 竜希	12.59	-1.2	
岡本 和晃	13.27	-0.8	

▼400m

小原 幹太	49.90	CB
眞杉 陸	50.70	
茂森 勇人	51.40	CB
加藤 陸至	51.92	
水野 廉也	52.22	♪
田中 達也	52.31	CB
中井 一宏	53.03	
吉川 慶	53.07	
平田 泰行	53.29	PB
佐藤 啓太	53.31	

宮崎 奨之	53.44
佐藤 優斗	54.09
立花 孝裕	54.52
見鳥 大樹	56.57
市川 和也	57.72
小林 直礼	57.73

▼1500m

土田 侑秀	4.03.57	PB
川井 拓哉	4.09.01	PB
谷口 博紀	4.10.40	PB
友田 浩平	4.13.31	
渡邊 康介	4.17.63	CB
山下 弘輝	4.17.76	
原田 麟太郎	4.21.43	♪
我妻 総	4.21.53	
平中 章貴	4.22.07	CB
小柴 鷹介	4.23.21	
岡本 和晃	4.23.93	
清水 智史	4.25.06	♪
渡邊 駿	4.26.09	
森田 大地	4.27.06	
糠谷 充孝	4.27.64	♪
富永 貴弘	4.28.33	
川岸 亮平	4.29.36	
中井 一宏	4.30.64	
河合 祐太	4.35.22	
長崎 裕貴	4.54.13	
豊本 竜希	4.59.83	
市川 和也	5.14.72	
佐藤 優斗	5.20.04	

▼5000m

渡邊 康介	16.11.22	CB
森田 大地	16.23.80	PB
渡邊 駿	16.28.31	
大前 晃一	16.50.73	♪
清水 秀広	16.51.77	♪

小柴 鷹介	16.51.83	
富永 貴弘	17.00.81	
里美 音実	17.04.94	♪
潮崎 羽	17.32.34	♪
大下 拓真	17.37.95	♪
谷川 尚希	17.39.86	
中井 一宏	19.14.06	
市川 和也	20.47.88	
佐藤 優斗	22.54.42	

▼5000mW

高野 圭太	22.23.13	
大本 康平	22.32.65	
海老原 脩	22.37.71	
田中 雄也	22.48.87	
亀田 孝太郎	23.35.02	CB

▼4×400mR

水野一西脇一茂森一小谷
3.27.18
日浦一森田悠一西田一吉川
3.38.81
長崎一豊本一佐藤優一市川
3.38.84

▼走幅跳

日浦 幹	6.40	+0.5	
松井 そら	6.25	+1.4	
南井 航太	6.17	+3.0	
公認	6.14	-0.8	
福島 快	6.13	+1.6	
柴田 星斗	5.90	±0.0	PB
長崎 裕貴	5.67	±0.0	
西田 光治	5.46	±0.0	
市川 和也	5.14	±0.0	
中井 一宏	5.08	±0.0	
吉川 慶	4.98	±0.0	

▼やり投

扇澤 剛志	37.76	
-------	-------	--

佐藤 優斗	34.90
豊本 竜希	34.65
市川 和也	27.29
森田 悠也	23.91
岡本 和晃	22.82
中井 一宏	9.43

・女子の部

▼100m

後藤 加奈	14.51	-2.9
宮崎 伶菜	14.84	-2.9

▼400m

後藤 加奈	1.03.81	CB
-------	---------	----

▼走幅跳

宮崎 伶菜	4.71	+1.2
-------	------	------

6. ご来場頂いたOB・OGの皆様

(卒業年度順・敬称略)

伊藤 久雄 (S34)
南浦 基二 (S34)
三島 宏夫 (S35)
佐藤 松範 (S37)
市川 哲 (S38)
出納 正彬 (S40)
井街 宏 (S41)
鯉谷 忠夫 (S41)
藤原 忠義 (S41)
森本 正幸 (S41)
芦田 昭充 (S42)
川尻 和広 (S42)
斉藤 文嗣 (S42)
丸山 昌造 (S42)
吉田 基 (S42)
吉田 美代子 (妻)
一戸 清彦 (S43)
松嶋 宏 (S43)
織本 聡 (S44)
勝村 弘也 (S44)
坪倉 重明 (S44)
松村 正則 (S46)
沼野 正義 (S47)
間瀬 一郎 (S47)
池本 忠司 (S49)
池田 康博 (S51)
桂 総一郎 (S51)
三好 稔彦 (S54)
小山 一之 (S54)
小山 千春 (S55)
吉臭 努 (S58)
熊谷 元 (S59)
二見 隆亮 (H21)

前田 靖朋 (H23)
森山 友紀子 (H23)
大橋 正義 (H24)
加奈山 憲代 (H25)
宿利 隆司 (H25)
清水 宏幸 (H25)
中東 太一 (H25)
長谷川 聡 (H25)
堀田 孝之 (H25)
眞武 俊輔 (H25)
水元 惟暁 (H25)
矢澤 学 (H25)
荒木 伸哉 (H26)
釜谷 美翔子 (H26)
神谷 諒介 (H26)
田中 友理 (H26)
西田 昌弘 (H26)
久好 哲郎 (H26)
平井 幹 (H26)
横山 高広 (H26)
横山 祐樹 (H26)
大畑 耕治 (H27)
久々津 文香 (H27会友)
熊澤 真奈 (H27)
中尾 優里 (H27)
寶徳 真大 (H27)
猪原 章 (H28)
市川 和也 (H28)
櫻井 大介 (H28)
大海 慎之輔 (H28)

ご来場頂き、誠にありがとうございました。
ございました。



蒼穹ニュース七大戦総括号 平成28年度 第四号
平成28年8月9日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：土田侑秀・小柴鷹介・黒瀬慶（副務）
特別協力：阿邊啓明・宮垣寛之・山内美佳・秋本啓太（学連員）
富永貴弘・谷口博記（記録係）・宮坂優太（HP 係）
写真担当：五十嵐隆皓・川岸亮平・林玲美

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku/index.htm>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>
メールアドレス roppe.0406@gmail.com（黒瀬）